

令和 6 年 年頭所感

令和 6 年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新年早々、大きな災害、事故が発生してしまいました。元日の夕方に石川県能登地方を中心とした大地震とそれによる日本海全域にわたる津波が発生し、時間が経つにつれ被害の大きさが明らかになり心配が募るばかりです。そして、2 日には羽田空港における重大な航空機事故が発生しました。事故機の様子を伝えるニュース映像の生々しさにただ驚くばかりでした。地震や津波、そして航空機事故で尊い人命を含め多くの被害が報告されています。亡くなられた方に深く哀悼の意を表しますと共に、被災されました方々や関係者の皆様に心からお見舞い申し上げます。特に、地震で被災された方々には厳寒の中、心細く不安な時間を過ごされているかと思うと胸が痛みます。被災地域の日も早い復興を願っています。

さて、国際社会では持続可能な未来に向けてDX, GX (カーボンニュートラル) 等の社会変革や、生成AIの革新的進展に伴う社会的課題など、社会が発展し持続可能であるための現代的課題が深刻さを増してきており、その解決に向けての大学等高等教育・研究機関に対する期待は増しています。本学も国立大学として、教育や研究の質を上げ、人材育成や研究の社会実装を進めることにより社会の期待に応えていくことが重要なミッションと考えます。本学ではこの観点に沿って大学改革を進めています。一昨年に認められました学部における40名の入学定員増を活用して、令和5年4月に入学定員80名の材料エネルギー学部を設置しました。材料エネルギー学部では、優れた情報スキルを基盤にした材料科学の専門的教育・研究を推進し、世界的なエネルギー課題の解決やGXの進展を目指すと共に、県内産業の振興、島根創生の実現に貢献することを目的としています。さらに、材料エネルギー学部をロールモデルとした全学部による改革構想が文科省「国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）」に選定され、この事業の一環として総合理工学部では機械工学における実践的研究力強化を核とした学部改組を令和7年4月に実施する予定で準備を進めています。また、法文学部では東北大学金属材料研究所との連携による青銅器を中心とした考古学領域の文理融合的研究の強化、そして、医学部では多様な専門領域の教員集団による腎疾患に関する統合的研究の強化を核とした学部改革がそれぞれ進められています。また、内閣府による「地方大学・地域産業創生交付金事業（たたらプロジェクト）の展開枠」や「地域中核大学イノベーション創出環境強化事業」の採択による、本学の研究力向上と島根創生に資する事業も着実に進めています。このように、国際的課題の解決と地域の中核として地方創生を見据えた大学改革をスピード感をもって進めており、今年の進展についても大きな期待が寄せられています。

島根県では人口減少・少子高齢化という切実な課題に対し、先進的に各自治体やNPO、

地域の住民が取り組んできました。元日の山陰中央新報誌では、「子どもは地域の希望」と題し、近隣の小学校との統合問題に端を発した出雲市のある地域における小学校の存続に関する取組が掲載されていました。他地域の学校との統合により、地域から小学校がなくなることの地域への影響の危機感から、地域の大人たちが率先して学校運営に協力しながら地域の核としての小学校の存続に取り組んでいる様子が報告されていました。一方で、地区の人口が減少し子供の数が減少すれば、学校の統廃合は避けられない問題です。地区（地域）の活性化と学校の存続は不可分な関係にあります。県内各地での県立高校の魅力化の根本にはこの考えがあると思います。地方国立大学についても同様で、島根大学にとっての地元は島根県であり、島根大学で多くの学生が元気に学び、国際的に高水準の研究が進展することによって人・企業を呼び込む流れが創られれば、それが島根県の活性化に繋がり、また、島根県が活性化することにより本学への志願者も増えるという好循環が創出されます。私たちの地域貢献は、「地域のため」だけでなく、「島根大学自身のため」の大切な活動と思います。構成員全員がこの意識を強く持って活動頂くことを願っています。

今、国内の高等教育全体は大きな流れの中にいます。大波に飲み込まれず、また、安きに流されることなく、大きな波を乗り切っていく知恵と覚悟が必要です。社会の動静を見極め、確かな判断力で流れを読み切ることが大切です。そして、「島根大学ビジョン 2021」や「第4期中期目標・中期計画」を着実に進捗することにより、教育・研究の質を転換・向上させ、その成果を着実に積み上げることによって、島根大学がきらりと光る「地域に生き、世界に輝くオンリーワンの大学」となることを願っています。

皆様にはこの一年をご健勝に過ごされ、本年がご多幸な年になりますように、そして、島根大学が未来に向けて飛竜のように大きく飛躍する年になることを祈念しまして、年頭の挨拶と致します。

令和6年1月4日
国立大学法人島根大学
学長 服部泰直